

Bチーム

テーマ：交流・子供

長久手市棒の手保存会

取材
報告

岩作6分会副会長浅井智氏の
協力により
岩作寺山 豊龍院にて



棒の手の起源と伝承

1623年に初めて日進市のオマント
警固祭を白山宮に奉納した。

1623年辺りから、猿投の神社に
それぞれの地区の棒の手奉納を行う
ようになった。

1830年代には、各地域で警固祭
が盛んになった。



棒の手は愛知県の代表的な民俗芸能の一つであり、「長久手の棒の手」は昭和31年6月21日に県の無形民俗文化財に指定された。

棒の手の起源ははっきりした資料がなく定説がない。一説には本郷城主（現在の日進市内）丹羽若狭守氏清が、城下の農民に武術を習得させたのが始まりで、丹羽氏の勢力が増大するのに従い各地に広まったとする説や、巻物をはじめ棒の手の内容に関する記録には修験道などの影響が強いところから、修験道に起源を求めた説もある。

棒の手の伝授

かつての棒の手は青年組織により受け継がれてきた。男子は小学校卒業から16歳頃までの一定の年齢に達すると、青年会などの組織に入り、棒の手の練習を始めた。

中でも巻物の伝授を受けようとする者は、師匠の元へ弟子入りの誓文血判を出して弟子となった。

そして、ツキロクサイ(月六斎)といって、月に6度練習日を決めて通い、3年あるいは6年目にして初めて免許目録を授与された。

巻物の受け継ぎは師匠の家で厳粛に行われた。深夜、師匠の家に声などもれないように目張りをし、巻物を授けたのち、口伝で奥義を伝えたとされる。



手書きの型の教本

各流派の起源や現存する巻物等は江戸時代後半の物が多く、奥伝、極意は秘伝とされており師匠から弟子へ極秘に伝授されることも多く、師匠からそれぞれ時代を経て受け継ぐ中、型の内容も少しずつ末端の弟子に行けば行くほど師匠の流儀によって、それぞれ変化してきたようです。奥伝、系譜など正確な事は不明です。



かざきり

刺繍で龍の姿を彩られ、家それぞれの家紋が施されています



棒の手の流派

棒の手の流派には県指定の主な物で15流派ほどある。

市で保存伝承されているのは『起倒流』『見当流』『鷹羽検藤流』『藤牧検藤流』の四流派。ちなみに岩作6分会は『起倒流』『鷹羽検藤流』の2派。

棒の手をささえる組織

棒の手は戦中戦後に一時衰退したが、昭和30年頃から各地で保存会が組織され氏子祭礼、馬の塔などの行事とともに受け継がれてきた。

奉納時の風景



奉納時の
お供え物



現在では子供会がある地区も少なく、生活の多様化で親も子供も忙しく子供の数はたくさんいるにもかかわらず、棒の手を習得する参加者は減少気味。しかし熱心な保存会の方々が小学校へ授業の一環として教えに行ったり小学校によっては、棒の手クラブを施し学童の子供達に参加させたり棒の手を広める為、他の地域

へもこの伝承文化を伝えたいと毎年棒の手の奉納だけは各分会ごと神社にて行っているそうです。この活動の成果は今後の結果次第ということで、頼もしいお言葉をいただきました。今後の発展を助ける意味で私たちも長久手市棒の手保存会の方の活動を色んな方々に発信していけたらいいと思います。

